

＜続編＞ 「恋愛・結婚に関するアンケート調査」を実施！ 明治安田総合研究所が恋愛と結婚観について大調査！

株式会社明治安田総合研究所（社長 神田 智尚）は、「恋愛・結婚に関するアンケート調査」を実施しました。本リリースは6月21日（水）に発行したリリースの続編となります。

（6月21日発行：https://www.myri.co.jp/research/report/2023_01.php）

今回のアンケート調査に関する主要ポイントは以下のとおりです。

主要ポイント

I. 恋愛観について（詳細はP5～）

◆恋愛・結婚等に関する考え方

- 恋人がいない人に、恋人は欲しいかをたずねたところ、「欲しい・計」が約7割！
- 恋愛や結婚に関して、自分からアプローチをするかについては、「あてはまらない・計」が約4割と、受け身な人が多数！恋人を「今すぐ欲しい」と思っている人でも、「あてはまる・計」と回答した人は3割以下
- 「好きな人に性別は関係ない」と考える割合は、女性や若年層の方が高い！
- 「自分の性別に違和感がある」と回答した人は、男性や若年層で多い結果に

◆出会い方とその理由

- 恋人や結婚相手となる可能性がある人との出会い方をたずねたところ、「知人からの紹介」、「職場」、「学校」が上位！10代～20代前半では「SNS」の割合も高い

◆オンラインでの出会いに対する不安感・抵抗感

- SNS やマッチングアプリ等のオンラインを利用して出会うことに対し、「抵抗がある・計」は約7割！特に女性の方が不安や抵抗感が高い
- SNS やマッチングアプリ等のオンラインを利用して出会ったことがある人のなかには、「勧誘された」、「詐欺にあった」と回答した人も

ご照会先

(株)明治安田総合研究所
木村 彩月
長谷川 康代

本調査内容の引用・転載をご希望の場合は、下記までご連絡いただきますよう、お願いいたします。

電話▶03-6261-7947 FAX▶03-3511-3200

Eメール▶sa2-kimura@myri.co.jp

ホームページ▶<https://www.myri.co.jp/>

II. 結婚観について（詳細はP11～）

◆交際から結婚へ

- 未婚者に、付き合ったら結婚を考えるかをたずねると、4割以上が「あてはまる・計」と回答！特に20代では半数前後が結婚を意識して交際をしている様子

◆未婚者が結婚相手に求める最低年収（性年代別）

- 未婚者が結婚相手に求める最低年収は、男性10代が求める平均年収が488.24万円（中央値：300万円）の一方、男性20代～50代の求める平均年収は300万円台！
- 一方、女性が求める平均年収は全年代で500万円台！ただし、10代や40代、50代では「600万円以上」を求める割合も高い！

エコノミスト 木村彩月が「結婚相手に求める年収」について分析！

◆未婚者が結婚相手に求める最低貯蓄額（性年代別）

- 未婚者が結婚相手に求める最低貯蓄額は、男性10代は平均で706.79万円！中央値が200万円であるため、人によって大きな差が！一方、男性40代、50代は「0円（求めない）」も高い
- 女性40代、50代では求める貯蓄額の平均が1,000万円超！

◆授かり婚に対する考え方

- 授かり婚でもいいと思うと回答した割合は約4割！

III. 子育て観について（詳細はP16～）

◆希望する子どもの人数と現実的に持てそうな人数

- 将来欲しい子どもの人数は「2人」が最も多く、平均で1.53人の子どもを希望！現実的に持てそうな人数も「2人」が最も多いものの、平均は1.20人と希望人数を下回る

◆政府・自治体からの支援

- 政府・自治体に求める支援として、子どもがいる人の方がいない人より「子どもの学費の無償化」を求める回答が10pt以上高い結果に！特に、子どもがいる女性の半数以上が「子どもの学費の無償化」を求める
- 政府・自治体からの「支援はもらえない」と回答した割合は、子どもがいない人の方がいる人に比べ10pt以上高い結果に！子育て支援に不公平感を感じている可能性も

エコノミスト 木村彩月が「子どもの学費の無償化」・「政府・企業からの支援」について分析！

◆企業からの支援

- 企業に求める支援で「住宅補助」と回答した人は、子どもがいる人で高い

IV. 疑似恋愛について（詳細はP23～）

- 約3割がペットやアイドル、タレント等について、恋愛対象になると回答！「アイドル」、「タレント」においては1割以上が恋愛対象に
- 男女別では、男性の方が一般人や身近な人だけでなく恋愛対象が広い様子

エコノミスト 木村彩月が「疑似恋愛」について分析！

＜調査の概要＞

- (1) 調査名：「恋愛・結婚に関するアンケート調査」
- (2) 調査対象：18歳以上54歳以下の男女7,453人
※回答次第で調査対象者が変動するため、回答者数は設問によって同一ではありません
- (3) 調査エリア：全国
- (4) 調査時期：2023年3月16日（木）～3月20日（月）
- (5) 調査方法：WEBアンケート調査
- (6) 回答者の内訳：

（単位：人）

		未婚		既婚	計
		学生	社会人		
18-19歳	男性	441	—	—	441
	女性	440	—	—	440
20-24歳	男性	220	220	164	604
	女性	220	221	222	663
25-29歳	男性	—	221	223	444
	女性	—	220	224	444
30-34歳	男性	—	219	221	440
	女性	—	220	221	441
35-39歳	男性	—	220	222	442
	女性	—	219	225	444
40-44歳	男性	—	219	224	443
	女性	—	222	224	446
45-49歳	男性	—	220	221	441
	女性	—	219	221	440
50-54歳	男性	—	219	221	440
	女性	—	220	220	440
		1,321	3,079	3,053	7,453

※掲載している図表等の構成比の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、個々の集計値の合計は必ずしも100%とならない場合があります。

※本文中の「あてはまる・計」は「あてはまる」+「ややあてはまる」を、「あてはまらない・計」は「あまりあてはまらない」+「あてはまらない」を示しています。

< 目 次 >

I. 恋愛観について

1. 恋愛・結婚等に関する考え方 5 ページ
2. 出会い方とその理由 8 ページ
3. オンラインでの出会いに対する不安感・抵抗感 9 ページ

II. 結婚観について

1. 交際から結婚へ 11 ページ
2. 未婚者が結婚相手に求める最低年収（性年代別） 12 ページ
3. 未婚者が結婚相手に求める最低貯蓄額（性年代別） 13 ページ
4. 結婚資金 14 ページ
5. 授かり婚に対する考え方 15 ページ

III. 子育てについて

1. 希望する子どもの人数と現実的に持てそうな人数 16 ページ
2. 政府・自治体からの支援 18 ページ
3. 企業からの支援 21 ページ

IV. 疑似恋愛について

1. 疑似恋愛の対象とその対象に対して行なっていること 23 ページ

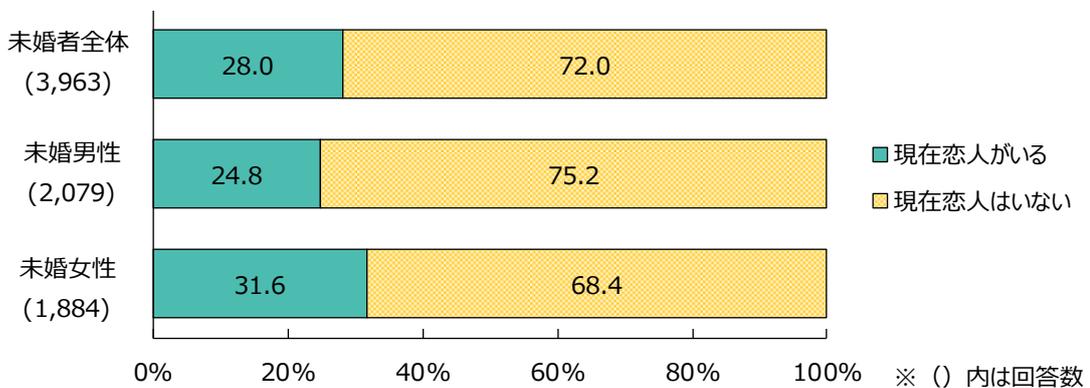
I. 恋愛観について

- ◆ 恋愛や結婚に関して、自分からアプローチをするかをたずねたところ、「あてはまる・計」が26.8%と、受け身な人が多い
- ◆ 女性や若年層の方が、好きな人に性別は関係ないとする割合が高い
- ◆ 男性や若年層で、自分の性別に違和感があると回答する割合が高い
- ◆ 恋人や結婚相手となる可能性がある人との出会い方はリアルな方法が上位！10代～20代前半ではSNSも活用
- ◆ 一方、出会いの方法としてSNSやマッチングアプリ等のオンラインを利用することに対して「抵抗がある」女性は約7割！なかには勧誘や詐欺にあった人も

1. 恋愛・結婚等に関する考え方

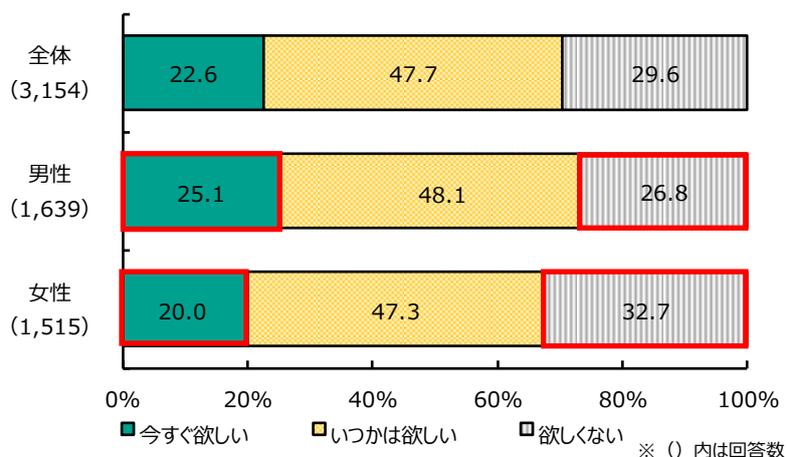
・今回のリリースの前編となる、6月21日にリリースした「恋愛・結婚に関するアンケート調査」で、未婚者に恋人がいるかをたずねたところ、72.0%が恋人がいないと回答し、男性の方が恋人がいない人が多い、という結果でした。(図表1▶)

(図表1) 恋人の有無 (単一回答)



・未婚者と離別・死別者の恋人がいない人に、恋人は欲しいかをたずねたところ、全体では「今すぐ欲しい」が22.6%、「いつかは欲しい」が47.7%、「欲しくない」が29.6%でした。男女別で見ると、男性の方が「今すぐ欲しい」と「欲しくない」が同程度であるのに対し、女性は「欲しくない」という回答が「今すぐ欲しい」を10pt以上上回りました。男性の方が、恋人が欲しい気持ちが強い傾向があるようです。(図表2▶)

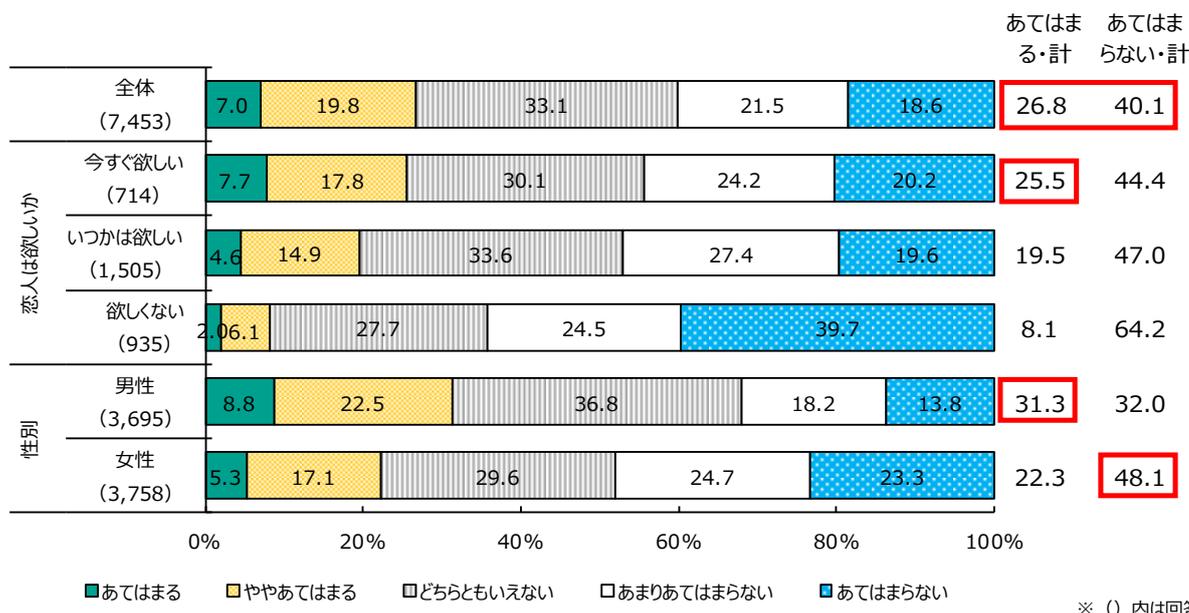
(図表2) 恋人は欲しいか (単一回答)



・回答者全員に、恋愛や結婚に関して、自分からアプローチをするかをたずねたところ、「あてはまる・計」が26.8%、「あてはまらない・計」が40.1%と、受け身な人が多い結果となりました。**恋人が「今すぐ欲しい」と思っている人でも「あてはまる・計」は25.5%にとどまっています。**アプローチをしない理由はたずねていませんが、自信のなさや自分からアプローチするのは恥ずかしい、といった思いがあるのもしれません。

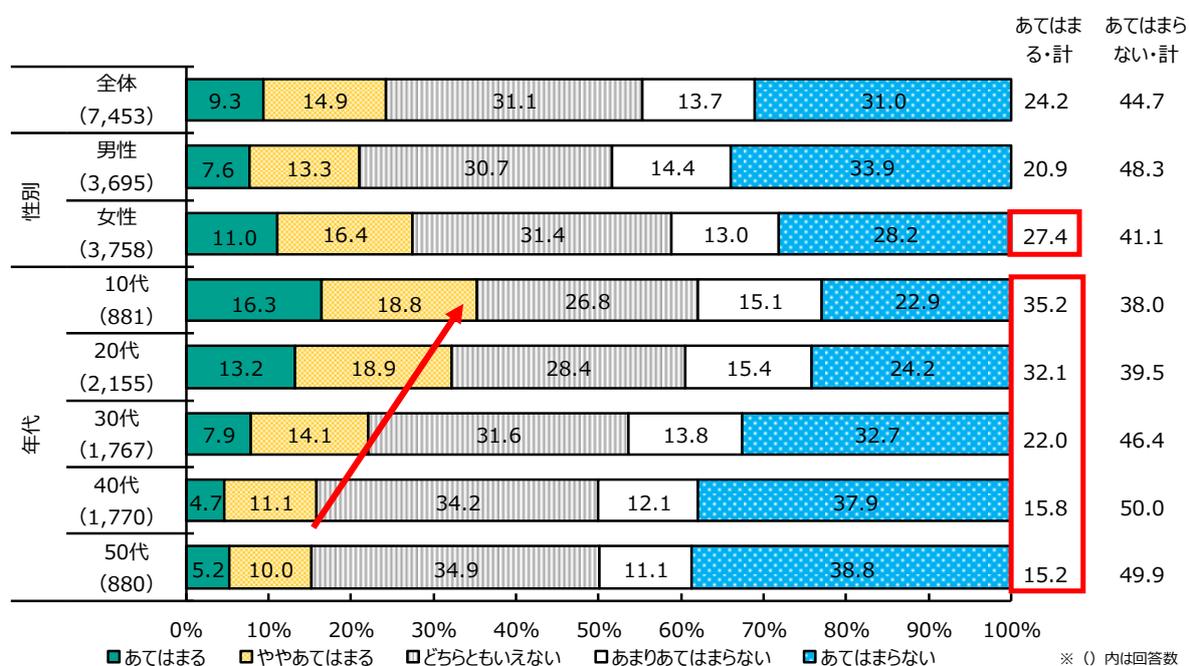
・また、男女別では、男性の「あてはまる・計」が31.3%、女性の「あてはまらない・計」が48.1%となっています。**男性のアプローチをする割合の方が低いため、女性が男性からのアプローチを待っていたとしても、男性がアプローチをしてくれない可能性があります。**交際や結婚を望む場合は、性別関係なく、自分からアプローチをしていく必要があります。(図表3 ▶)

(図表3) 自分からアプローチする (単一回答)



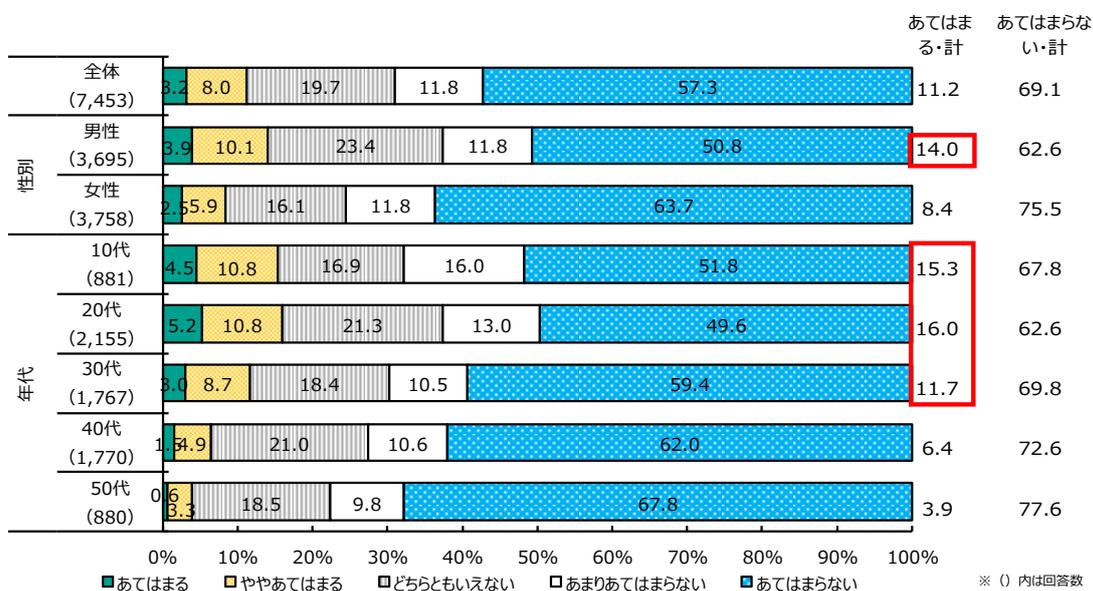
・好きな人に性別は関係ないかどうかをたずねたところ、「あてはまる・計」と回答した割合は24.2%、「あてはまらない・計」が44.7%でした。**女性や若年層ほど「あてはまる・計」の割合が高く、好きな人に性別は関係ないと考えているようです。(図表4 ▶)**

(図表4) 好きな人に性別は関係ない (単一回答)



・自分の性別に違和感があるかもたずねたところ、「あてはまる・計」と回答した割合は11.2%、「どちらともいえない」が19.7%、「あてはまらない・計」が69.1%でした。**男性や若年層の方が「あてはまる・計」の割合が高くなっています。現在、性別に関する議論が多数行なわれていますが、一人ひとりが自分らしくいられる社会になってほしいと思います。(図表5 ▶)**

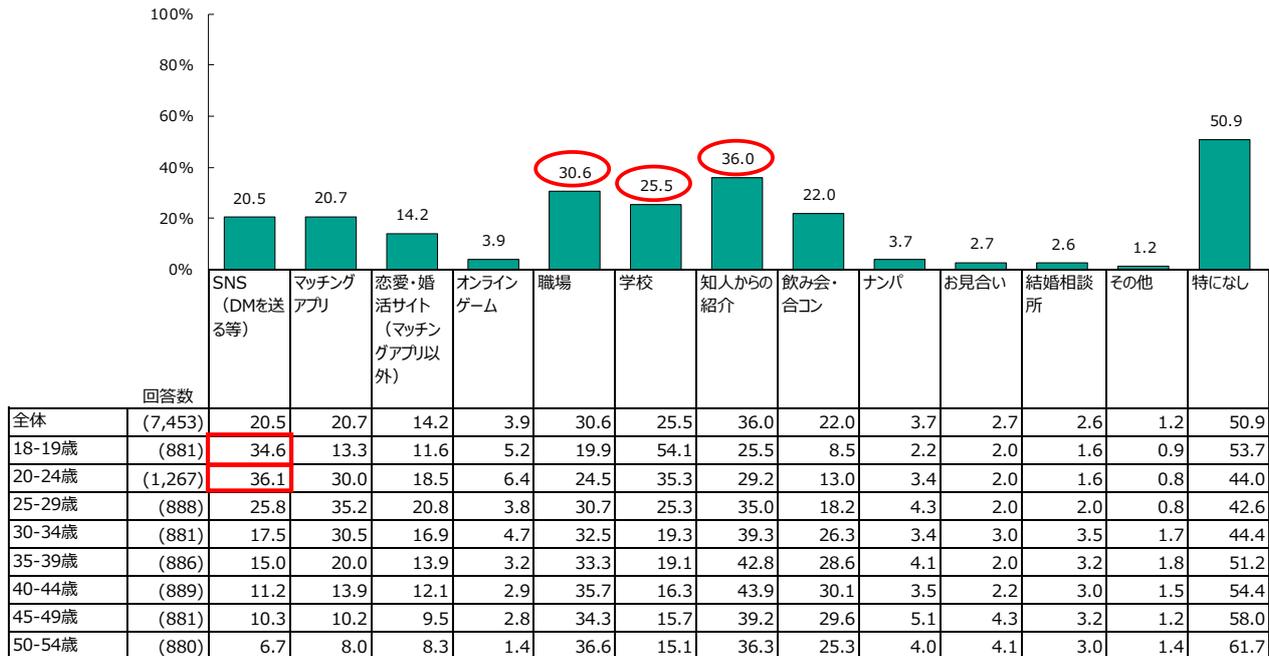
(図表5) 自分の性に違和感がある (単一回答)



2. 出会い方とその理由

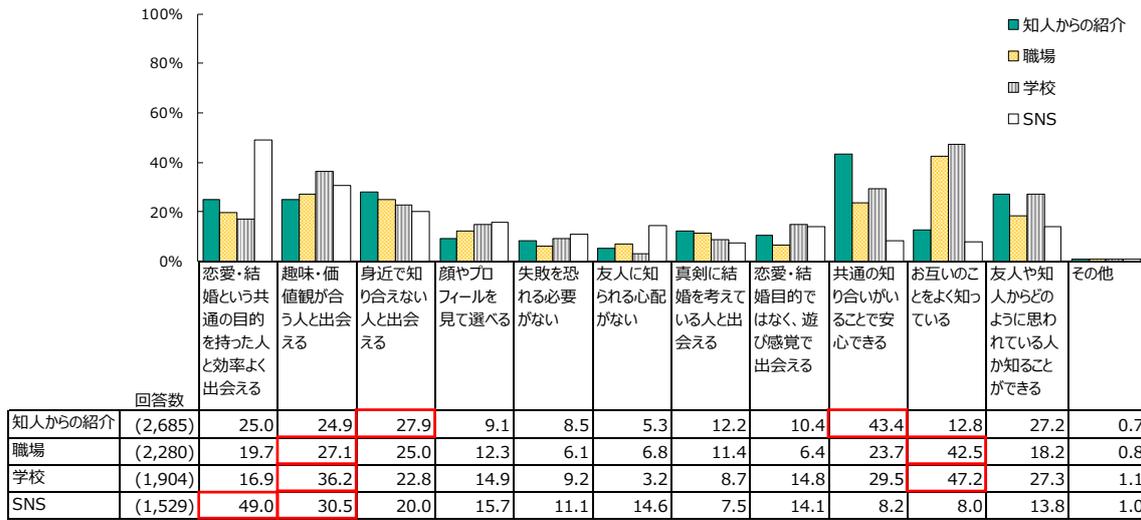
- ・ 恋人や結婚相手となる可能性がある人との出会い方をたずねたところ、「知人からの紹介」(36.0%)、「職場」(30.6%)、「学校」(25.5%)が上位でした。10代~20代前半(18歳~24歳)では「SNS」も高くなっています(10代:34.6%、20代前半:36.1%)。(図表6▶)

(図表6) 恋人や結婚相手となる可能性がある人との出会い方(上位3つまで)



- ・ それぞれの出会い方を利用した理由をたずねると、「知人からの紹介」では「共通の知り合いがいることで安心できる」(43.4%)、「身近で知り合えない人と出会える」(27.9%)が、「職場」や「学校」では「お互いのことをよく知っている」(職場:42.5%、学校:47.2%)、「趣味・価値観が合う人と出会える」(職場:27.1%、学校:36.2%)が、「SNS」では「恋愛・結婚という共通の目的を持った人と効率よく出会える」(49.0%)、「趣味・価値観が合う人と出会える」(30.5%)が上位となっています。(図表7▶)

(図表7) それぞれの出会い方を利用した理由 (複数回答)

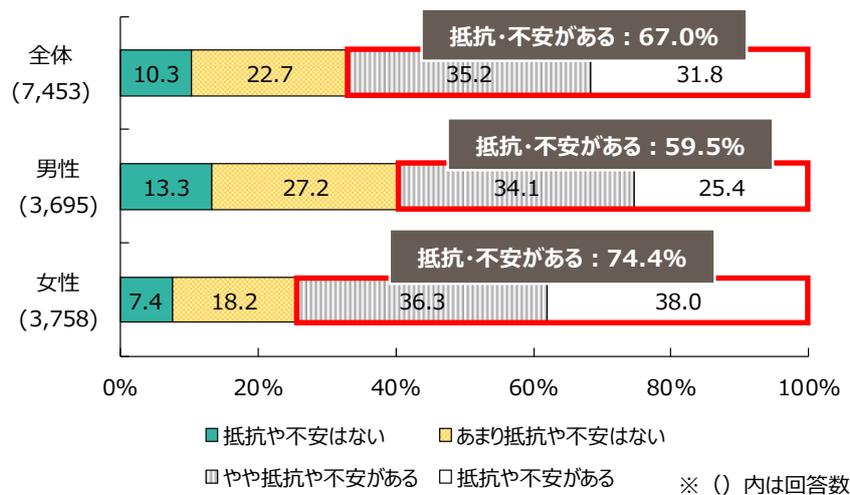


・ SNS の利用も当たり前の時代となり生活の中に溶け込んでいます。“わざわざ”出会いの場を設定したり、マッチングアプリや結婚相談所等に登録するのではなく、“普段の生活の中で効率よく出会う”ということを望んでいるようにもみえます。

3. オンラインでの出会いに対する不安感・抵抗感

・ SNS やマッチングアプリ等のオンラインを利用して出会うことに対する不安や抵抗感をたずねたところ、「抵抗がある・計 (やや抵抗がある + 抵抗がある)」が約 7 割となっています。特に女性の方が不安や抵抗感が高いことがうかがえます。(図表8 ▶)

(図表8) オンラインでの出会いに対する不安感・抵抗感 (単一回答)

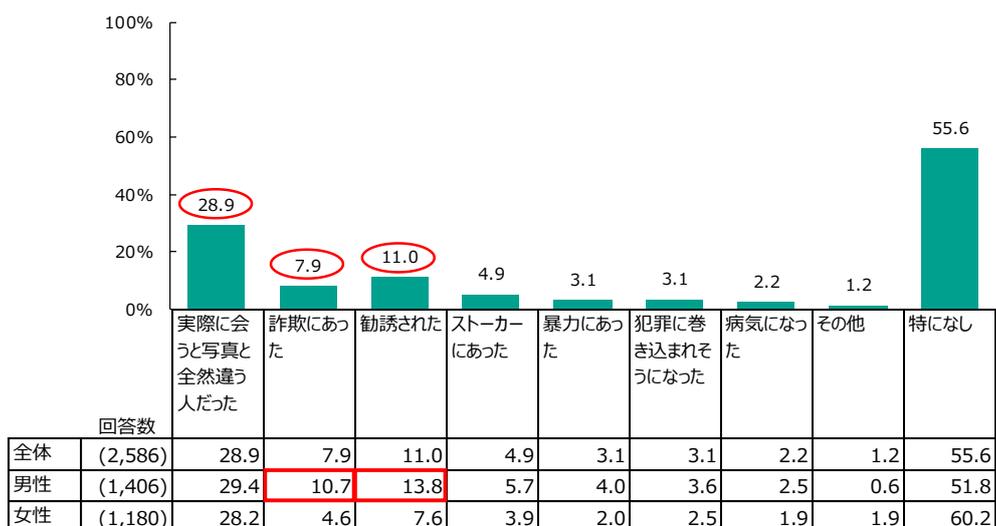


・また、SNS やマッチングアプリ等のオンラインを利用して出会ったことがある人に、**勧誘や詐欺等も含めて何か経験したことがあるかをたずねたところ、「特になし」が 55.6%と高いものの、44.4%が何かを経験したと回答しています。**男女別では、女性の方がそのような経験が少なくなっています。（「特になし」が男性は 51.8%、女性は 60.2%）不安や抵抗感から女性の方が慎重に会う人を見極めているのかもしれませんが。

・また、**実際に経験したこととしては、「実際に会うと写真と全然違う人だった」が最多で(28.9%)、「勧誘された」(11.0%)、「詐欺にあった」(7.9%)が続きます。特に男性で「勧誘された」、「詐欺にあった」が1割以上という結果でした。(図表9 ▶)**

・オンラインで出会った人からビジネス等の勧誘を受けた、詐欺にあった等のトラブルも、ニュース等で見かけるようになりました。出会いを求めることは悪いことではありません。ただし、このようなことを経験する可能性もあることを意識しながら、利用していく必要があると考えます。

(図表9) 勧誘や詐欺なども含めた経験の有無



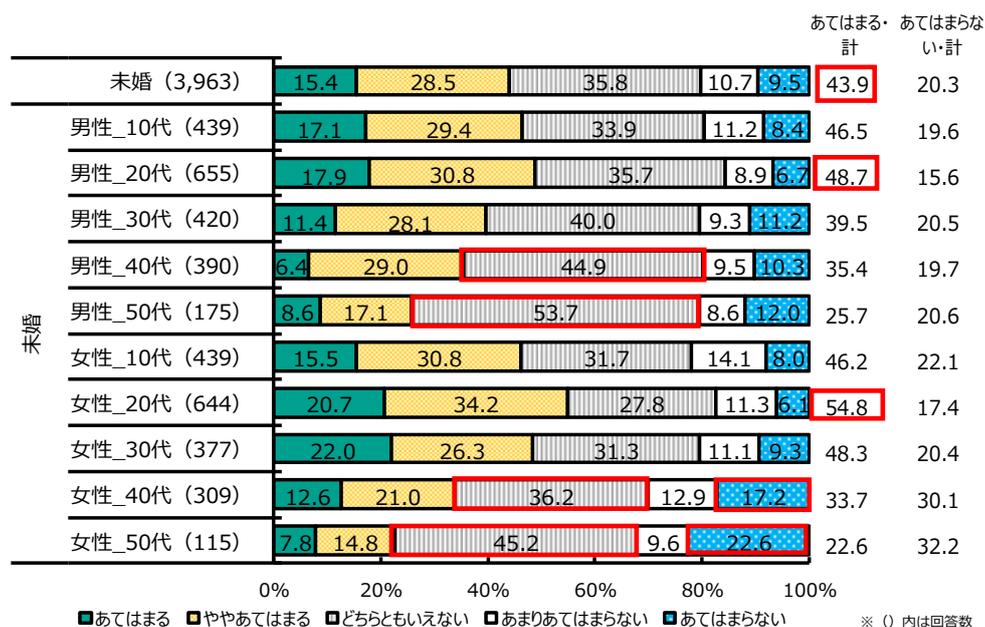
II. 結婚観について

- ◆ 未婚者のうち、付き合ったら結婚を考える人は約 4 割！特に 20 代では半数前後が結婚を意識している様子！
- ◆ 未婚者が結婚相手に求める最低年収を性年代別にみると、男性 20 代～50 代の平均は 300 万円台！男性 50 代では、「0 円（求めない）」と回答する割合も高い
- ◆ 未婚者が結婚相手に求める最低貯蓄額を性年代別にみると、女性 40 代～50 代では求める貯蓄額の平均が 1,000 万円超！
- ◆ 未婚者に結婚資金がどれくらい必要だと思うかを、既婚者には実際にかかった金額をたずねると、「結婚式」では既婚者の方が高い金額に
- ◆ 授かり婚でもいいと思うと回答した人は約 4 割！

1. 交際から結婚へ

・未婚者に付き合ったら結婚を考えるかをたずねたところ、43.9%が「あてはまる・計」と回答しました。さらに年代別でみると、男女ともに 20 代が「あてはまる・計」が最も高くなっており、特に女性 20 代は結婚を意識して交際しているようです。（男性 20 代：48.7%、女性 20 代：54.8%）。一方、40 代～50 代は「あてはまる・計」よりも「どちらともいえない」が男女ともに高く、特に女性 40～50 代は「あてはまらない」が 2 割前後と高くなっています。慎重に結婚を考えていることがうかがえます。（図表 10 ▶）

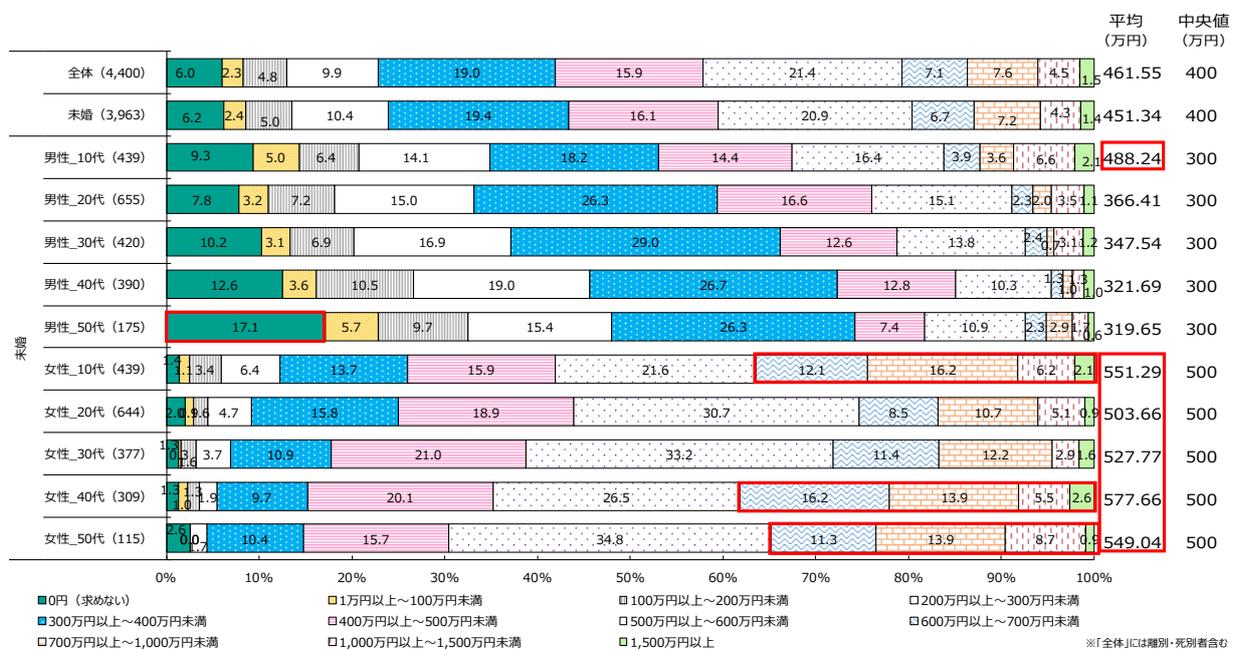
（図表 10）付き合ったら結婚を考える（単一回答）



2. 未婚者が結婚相手に求める最低年収（性年代別）

- ・6月21日に公表したリリースでは、未婚者と離別・死別者の男女別で、結婚相手に求める最低年収・貯蓄額を掲載しました。
- ・今回は未婚者の性年代別でみると、**男性の10代が求める平均年収は488.24万円（中央値：300万円）、20代～50代は300万円台となっています。ただし、50代は「0円（求めない）」も17.1%と高くなっています。**
- ・一方、女性では、全年代で求める平均年収が500万円台となっていますが、**10代や40代～50代では「600万円以上」を求める割合も高くなっています（10代：36.4%、40代：38.2%、50代：34.8%）。**（図表11▶）

（図表11）求める最低年収（単一回答）



エコノミスト 木村彩月が「結婚相手に求める年収」について分析！

未婚女性が結婚相手に求める年収の中央値は 500 万円ですが、これを上回る所得がある未婚男性の割合は 23.9%と、4 人に 1 人以下となっています（総務省「就業構造基本調査」より）。また、未婚男性が結婚相手に求める年収の中央値である 300 万円を上回る所得のある未婚女性は 47.2%と、こちらも半数以下です。

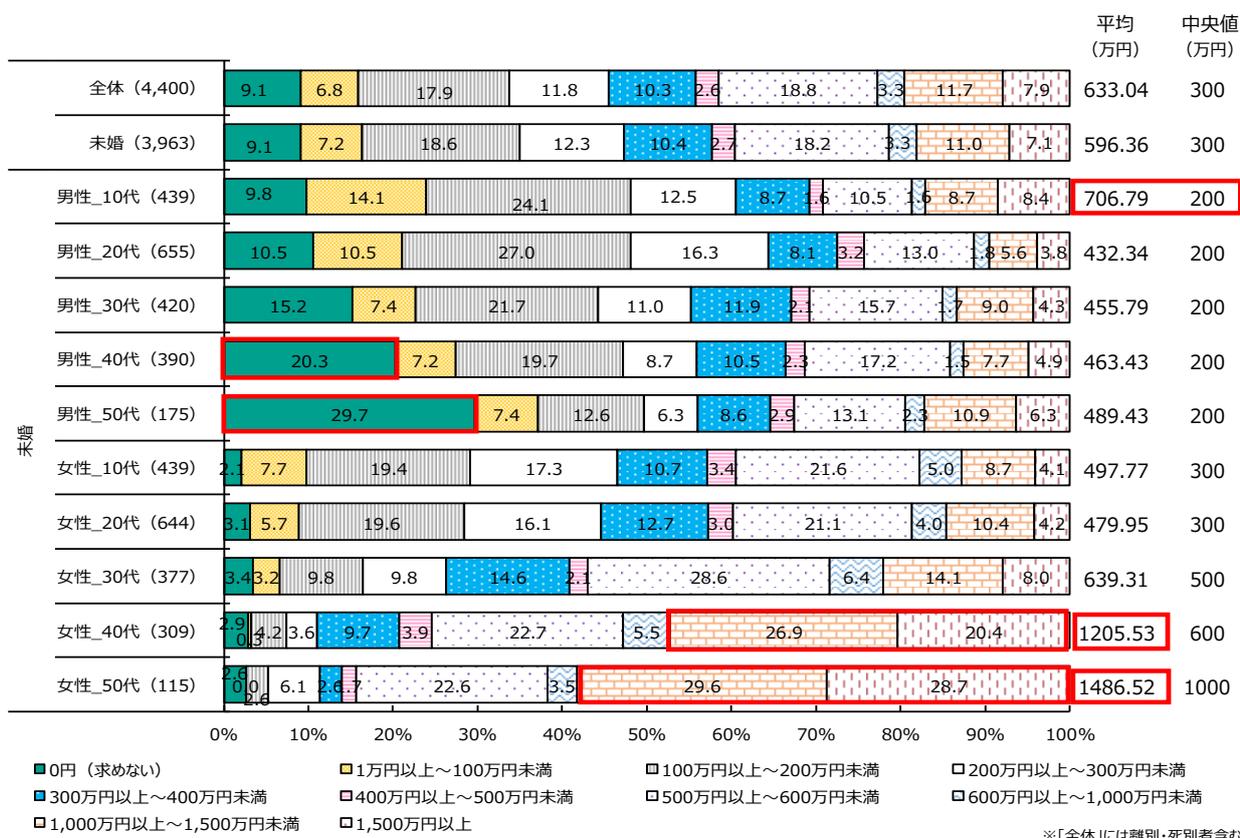


近年は、男性が結婚相手となる女性に対し、経済力を求める傾向が高まっています。国立社会保障・人口問題研究所の調査によれば、「結婚相手の経済力を重視・考慮するか」という問いに対して、未婚者（18～34 歳）のうち「重視する／考慮する」と回答した女性の割合は従来から約 9 割でほぼ横ばいで推移する一方、男性は、2002 年調査の 29.5%から 2021 年には 48.2%まで大きく上昇しました。女性に比べると割合は低いものの、女性の社会進出が進んでいることなどを背景に、男性側も女性に対して経済力を求める気持ちが強まっている様子がうかがえます。

3. 未婚者が結婚相手に求める最低貯蓄額（性年代別）

- ・結婚相手に求める最低貯蓄額においても、男性 10 代は平均で 706.79 万円となっています。しかしながら、中央値が 200 万円であるため、人によって差が大きいことがうかがえます。男性 20 代～50 代については 400 万円台の貯蓄を求めているようですが、**40 代～50 代では、「0 円（求めない）」も 2～3 割程度と高くなっています。**
- ・**女性 40 代～50 代では求める貯蓄額の平均が 1,000 万円を超えており、女性 40 代の約 5 割が、50 代では約 6 割が 1,000 万円以上を求めているようです**（女性 40 代平均：約 1,206 万円、女性 50 代平均：約 1,487 万円）。**（図表 12 ▶）**
- ・2019 年 6 月に発表された「金融審議会 市場ワーキング・グループ報告書」をきっかけに、「老後 2,000 万円問題」が取り沙汰されるようになりました。未婚の女性 40 代～50 代の自身の貯蓄額はたずねていませんが、年齢を考えたときに相手の貯蓄が 1,000 万以上ないと老後資金が 2,000 万円にならず足りない、と考えているのかもしれません。

(図表 12) 求める最低貯蓄額 (単一回答)



4. 結婚資金

・未婚者に結婚する場合どのくらいの結婚資金が必要だと思うかを、既婚者には実際にかかった金額をたずねたところ、「結納」、「婚約指輪」、「結婚指輪」、「インテリア・家具・家電」、「その他」で未婚者の方が高く、「結婚式」で既婚者の方が高い金額となりました。「結婚式」については、『せっかくの結婚式だから』、『参加者を喜ばせたい』といった気持ちから、オプション等を追加してしまい、費用が予算より上振れしてしまうのかもしれませんが。(図表 13)▶

(図表 13) 結婚資金平均 (数値回答)

(単位: 万円)

	結納	婚約指輪	結婚指輪	結婚式	新婚旅行	住居費 (家)	インテリア・家具・家電	その他	合計
未婚者 (3,963)	35.82	28.22	36.08	124.45	50.22	420.69	54.31	30.36	780.13
既婚者 ※婚約中含む (2,911)	25.26	21.15	21.61	161.91	45.73	435.55	44.02	13.55	768.78

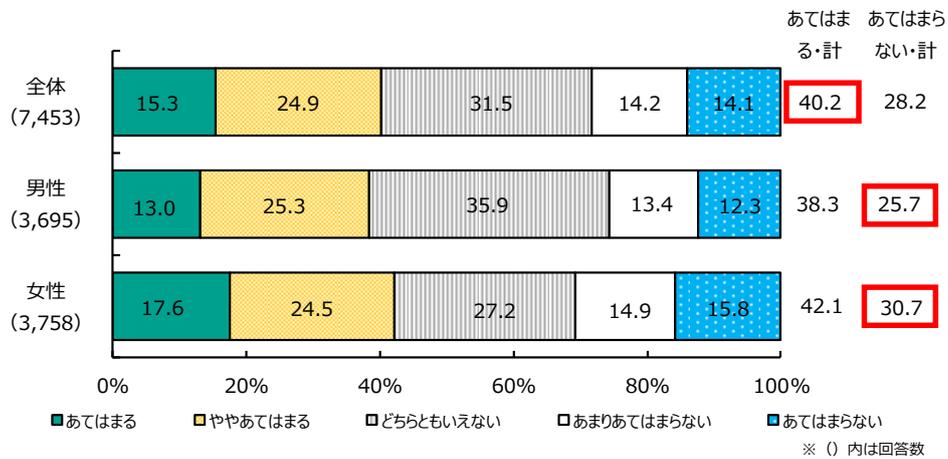
※ () 内は回答数
 ※有意差があるもののみマーキング

5. 授かり婚（妊娠が発覚し結婚すること）に対する考え方

・授かり婚でもいいと思うかについてたずねたところ、「あてはまる・計」と回答した割合は40.2%、「どちらともいえない」が31.5%、「あてはまらない・計」が28.2%と、授かり婚に肯定的な考えを持っている割合が高くなりました。

・男女別でみると、女性の方が「あてはまる・計」の割合が高いものの、「あてはまらない・計」も30.7%と、男性より高くなっています。妊娠することは喜ばしいと思う反面、自身のキャリアや今後のライフスタイルをしっかりと考えたうえで妊娠や結婚をしたい、という思いがあるのかもしれない。（図表14▶）

（図表14）授かり婚（妊娠が発覚し結婚すること）でもいいと思う（単一回答）



Ⅲ. 子育てについて

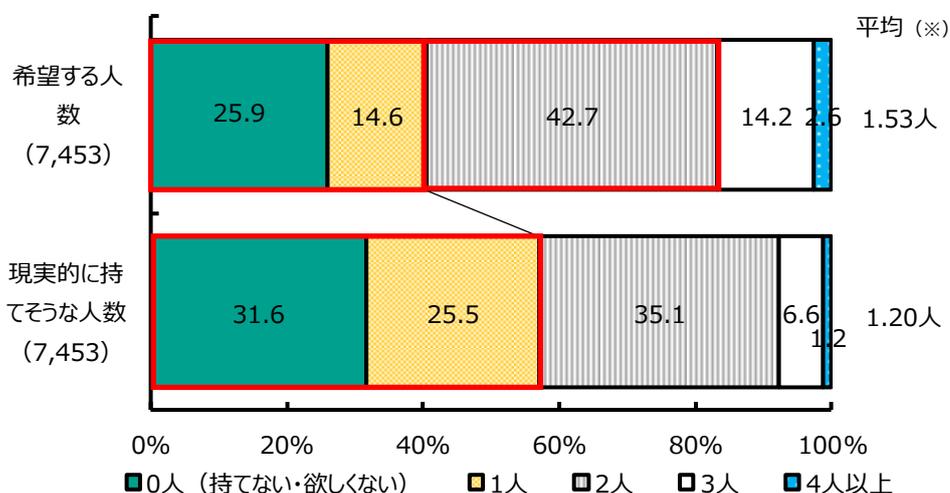
- ◆ 将来欲しい子どもの人数は「2人」が最多！
- ◆ 一方、半数以上が「子どもを持ってない・欲しくない」もしくは、「希望する人数より現実的に持てそうな人数が少ない」と回答
- ◆ 「子どもを持ってない・欲しくない」もしくは「希望する人数より現実的に持てそうな人数が少ない」理由は、「今以上の生活費や教育にかかる経済的負担に耐えられない」が最多。特に子どもがいる女性の約6割が回答
- ◆ 政府や自治体からの支援では、子どもがいる人の方がいない人より「子どもの学費の無償化」、「子ども手当、子どもを一定数以上持つことによる子ども手当加算」が10pt以上高い
- ◆ 企業からの支援では、子どもがいる人の方が「住宅補助」が10pt以上高い！

1. 希望する子どもの人数と現実的に持てそうな人数

- ・将来欲しい子どもの人数をたずねたところ（※）、「2人」が最も高く42.7%、次いで「0人（持てない・欲しくない）」が25.9%、平均で1.53人子どもを希望しているようです。
- ・また、現実的に持てそうな人数をたずねたところ、平均が1.20人となり、「2人」が35.1%で最も高いものの、希望する人数より「1人」（25.5%）や「0人」（31.6%）の割合が高まり、54.2%が「子どもを持ってない・欲しくない」、もしくは、「希望する人数より現実的に持てそうな人数が少ない」と回答しています。（図表15、16▶）

※すでに子どもがいる方は、その人数を含めた人数を回答

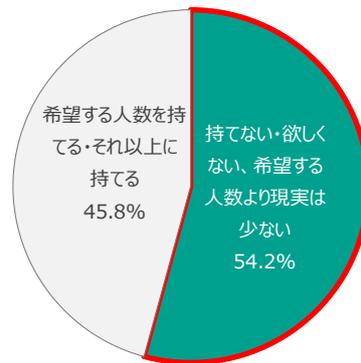
（図表15）希望する子どもの人数と現実的に持てそうな人数（各単一回答）



※ () 内は回答数
※「4人以上」は「4人」として平均値算出

(図表 16) 子どもを持ってない・欲しくない、希望する子どもの人数を持ってない割合

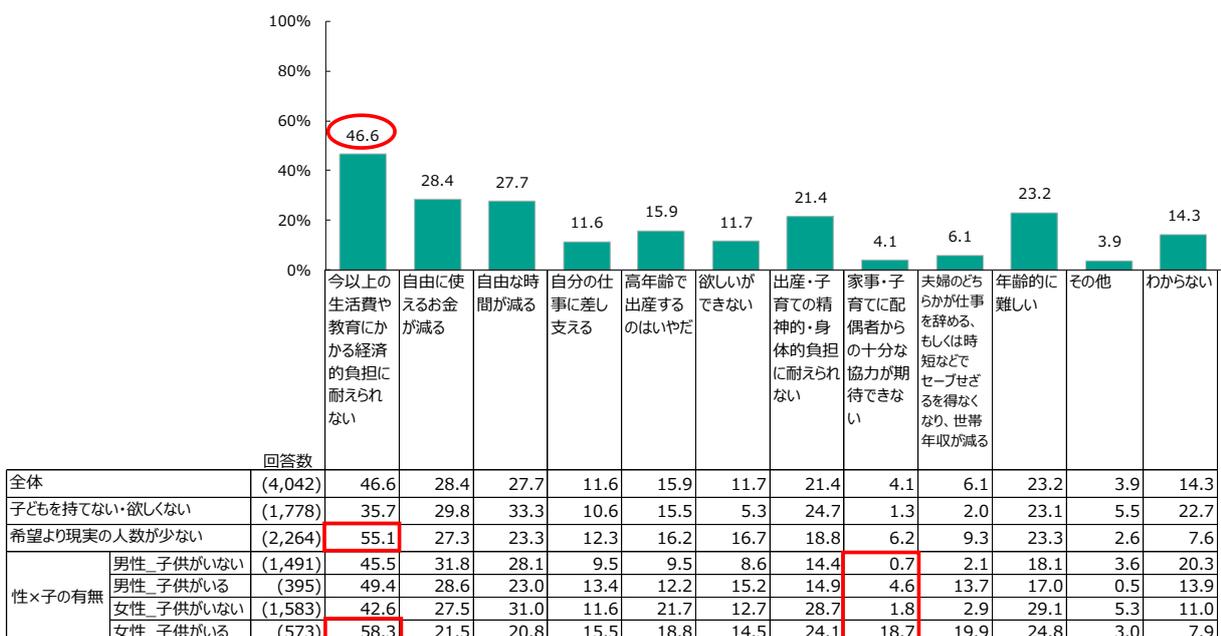
(回答数より算出)



・「子どもを持ってない・欲しくない」、もしくは、「希望する人数より現実的に持てそうな人数が少ない」理由として、「今以上の生活費や教育にかかる経済的負担に耐えられない」が**46.6%**と最も高くなっています。特に、希望人数より現実的に持てそうな人数が少ない人の55.1%が経済的負担を理由に、希望の人数をあきらめることを考えているようです。

・現在子どもがいる人といない人でみると、子どもがいる女性は「今以上の生活費や教育にかかる経済的負担に耐えられない」が**58.3%**と高くなっています。「年齢的に難しい」(24.8%)、「出産・子育ての精神的・身体的負担に耐えられない」(24.1%)が続きますが、「家事・子育てに配偶者からの十分な協力が期待できない」(18.7%)が、男性や子どもがいない人よりも高くなっています。経済的な問題に加え、配偶者の協力も少なからず影響を与えているようです。(図表 17▶)

(図表 17) 子どもを持ってない・欲しくない、または希望する人数より現実的に持てそうな人数が少ない理由 (複数回答)



- ・その他、自由回答では「子どもが嫌い」や、「国の将来や世の中の状況を考えると子どもがかわいそう」といった意見もあげられました。

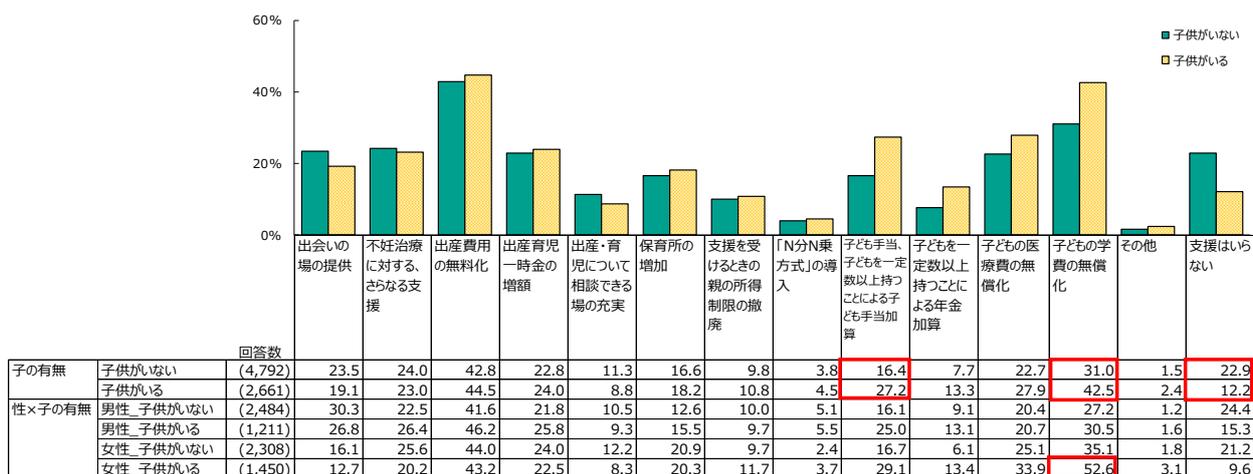
2. 政府・自治体からの支援

- ・6月21日に発行したリリースでは、回答者全員に対して、給付金以外で政府や自治体からどのような支援があると結婚する人を増やしたり、子どもを産みやすく育てやすくなるかを上位3つまでたずねました。

- ・今回は現在子どもがいる人といない人の結果をみると、子どもがいる人の方がいない人より「子どもの学費の無償化」、「子ども手当、子どもを一定数以上持つことによる子ども手当加算」が10pt以上高くなっています。特に「子どもの学費の無償化」では、子どもがいる女性の半数以上が求めているといった結果となっています。

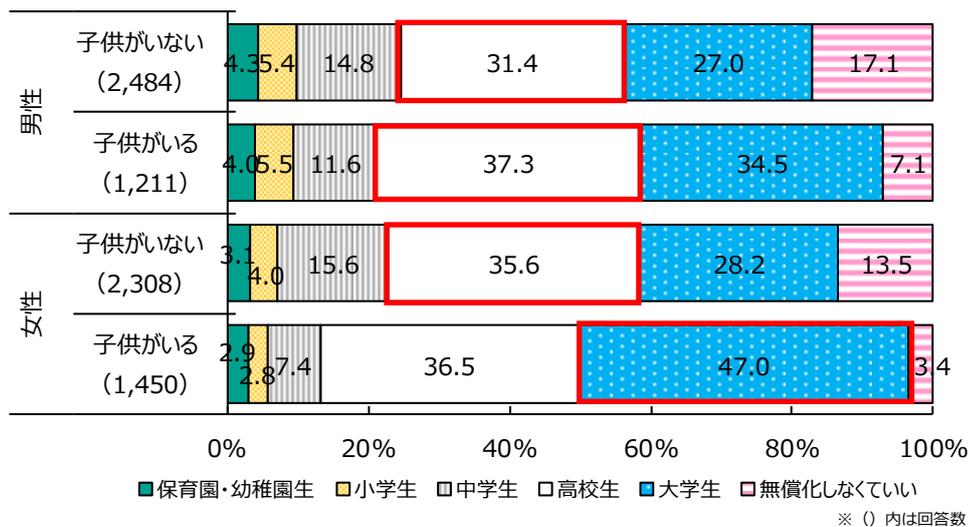
- ・一方で、子どもがいない人は「支援はもらえない」も2割以上と、子どもがいる人よりも10pt以上高くなっています。「支援はもらえない」と考える理由はたずねていませんが、子どもがいる人といない人で不公平感を感じているのかもしれない。(図表18▶)

(図表18) 政府・自治体からの支給付金以外の支援（上位3つまで）

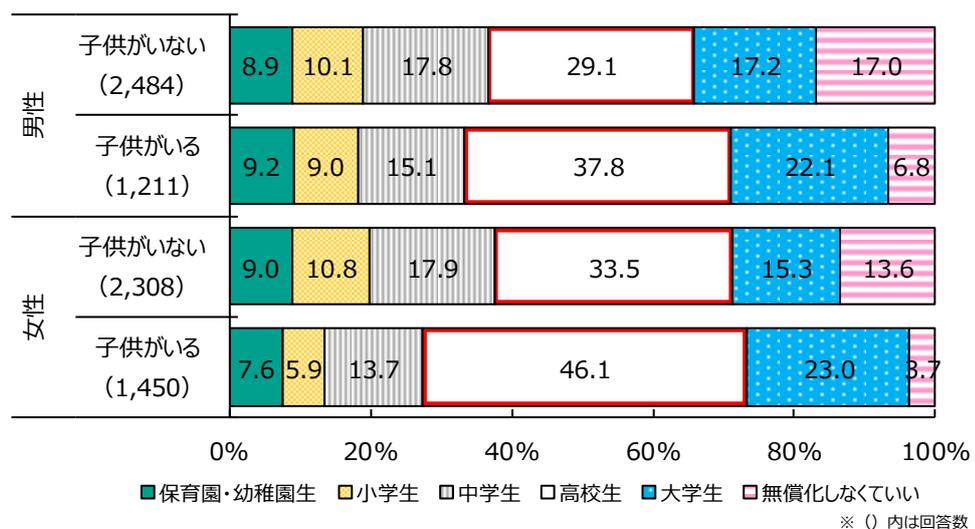


- ・子どもがどのくらい成長するまで「学費の無償化」や「医療費の無償化」があればいいかも、子どもがいる人といない人でみてみると、「学費の無償化」については、子どもがいる女性の47.0%が「大学生」までの無償化を求めています。(図表19▶)
- ・「医療費の無償化」については、子どもの有無に関係なく、「高校生」までが高くなっています。(図表20▶)

(図表19) 学費の無償化 (単一回答)



(図表20) 医療費の無償化 (単一回答)



エコノミスト 木村彩月が「子どもの学費の無償化」について分析！

子どもがいる女性の約半数が、大学まで学費の無償化を求めていることが分かりました。

子どもの進路などにも左右されますが、子どもを育てるために必要な支出のなかで、教育費は大きな割合を占めます。OECD によれば、日本は、年間教育支出における家計の負担割合が 28.3%と、OECD 全体の平均（15.0%）を大きく上回っており、諸外国に比べて負担が重くなっています。このデータは、私立高校や大学の授業料無償化が開始される前の 2019 年のものであるため、現在の家計負担は、もう少し軽減されていると思われます。

ただ、内閣府の「少子化社会に関する国際意識調査報告書（2020 年）」によれば、20～49 歳の男女が子育てにおいて経済的に負担に思うことは「学校教育費」との回答が多いことに加え、「学習塾など学校以外の教育費」については、諸外国に比し突出して高い割合となっており、かつ増加傾向にあります。

政府が 6 月 13 日に公表した「こども未来戦略方針」では、貸与型奨学金の減額返還制度が利用可能な年収上限の引き上げに加え、授業料等減免及び給付型奨学金について、多子世帯や理工農系学生等を持つ中間世帯層に拡大するなどのメニューが盛り込まれました。ただ、学習塾など学校以外の教育費が負担であると感じている子育て世帯が世界的に見ても多いことも踏まえると、教育に関連する支援のさらなる拡充を検討する余地がありそうです。



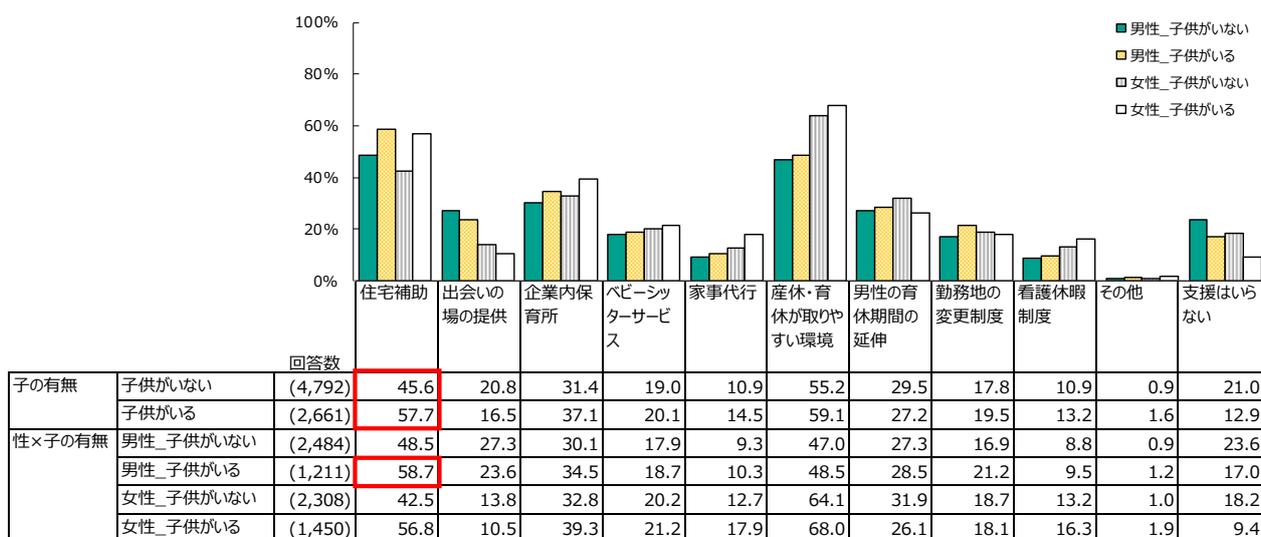
3. 企業からの支援

・企業からどのような支援があると、結婚する人を増やしたり、子どもを産みやすく育てやすくなるかについても、子どもがいる人といない人でみると、**子どもがいるの方が「住宅補助」が10pt以上高く、6割近くが「住宅補助」を求めているようです。特に子どもがいる男性では「住宅補助」が58.7%と、他の支援よりも高くなっています。(図表21▶)**

・**月々の給与やお小遣いのうち、住居費や生活費等がそれぞれどれくらいの割合でかかっているのかもたずねたところ、住居費は約20%を占めると回答しています。**

・固定費である住居費はなかなか減らすことはできません。企業が「住宅補助」を出すことは簡単なことではないですが、家計をサポートすることにもつながり、結婚や子育てに前向きになれるのかもしれない。(図表22▶)

(図表21) 企業からの支援 (上位3つまで)



(図表22) 給与やお小遣いの中で住居費や生活費等が占める割合 (数値回答)

(単位：%)

住居費	生活費 * 光熱費、 通信費等	食費	趣味・自己 啓発	デート	デート以外 の交際費	貯金	教育費	その他費用
19.56	14.24	19.59	12.62	3.87	4.59	13.35	3.57	8.61

n=7,453

エコノミスト 木村彩月が「政府・企業からの支援」について分析！

政府・企業からの支援について、子どもがいる人といない人で、「支援はいらない」と回答した割合に差があることが分かりました。実際に子育てをしていない人については、支援の必要性を感じづらい面もあるかと思いますが、少子化が深刻な社会問題となるなか、子育ては親の役割、産んだ人の責任という考え方から、社会全体で取り組むものという意識を広げる必要があります。とはいえ、政府からにせよ、企業からにせよ、子育て世帯にばかり支援が集中しすぎると、子どもを持つ人、持たない人との間で軋轢や分断が生じてしまう恐れもあります。

産休・育休を取得する人は、休職期間が相応に長くなることに加え、復帰後、時短勤務を選択するケースも多いです。その分、新たに人員を確保できれば良いのですが、中小企業を中心に人手不足が深刻化するなか、産休・育休を取得する人、復帰する人が出るたびに人員を調整するのは、大企業であったとしても大変な負荷がかかります。人員確保ができなかった場合、残った仕事をフォローするのは、同じ部署などに所属する周囲の社員が中心となるケースが多いと思われます。したがって、政府や企業は、省人・省力化に向けたDX投資を進めるとともに、フォロー・応援手当の導入や、増えた仕事に対する評価制度を設けるなど、産休・育休を取得する人を支える周囲の社員に対するフォローを拡充する必要があると考えられます。それが、「産休・育休が取りやすい職場環境」につながるほか、社員の満足度が向上することで、企業にとっても人材確保などの面で大きなアドバンテージになるのではないのでしょうか。



IV. 疑似恋愛について

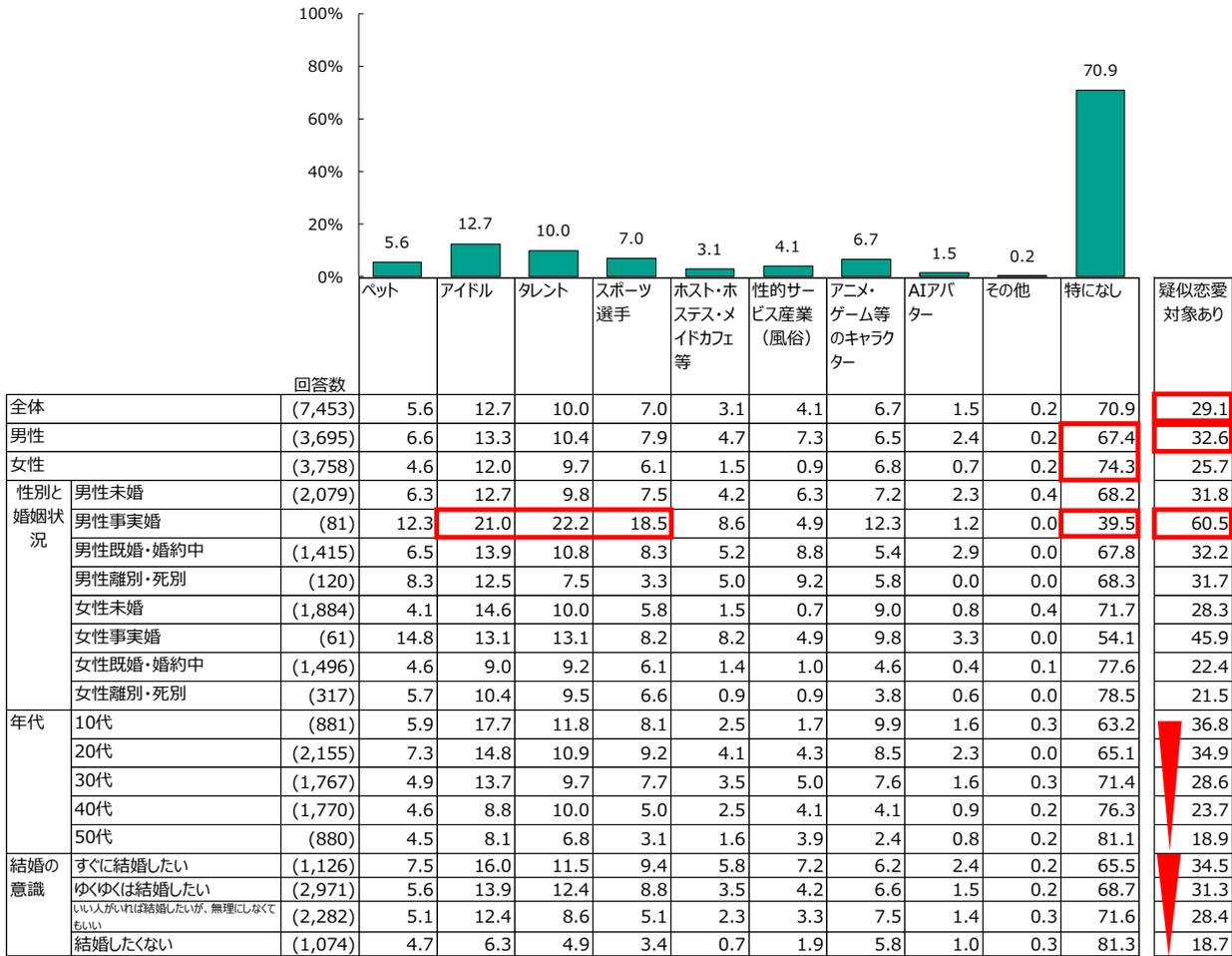
- ◆ 約 3 割の人がアイドルやタレント等を恋愛対象にしてる！？男性や結婚意向が強い方が恋愛対象が広い可能性も！
- ◆ 特に男性の事実婚では、約 6 割がアイドルやタレント等も恋愛対象になると回答！
- ◆ リアルな恋愛に関心が持てない未婚者は 3 割強！恋人を今すぐ欲しいと思わない要因の 1 つ？！
- ◆ 既婚・婚約中、事実婚でもリアルな恋愛にすぐには関心が持てない人も

1. 疑似恋愛の対象とその対象に対して行なっていること

・ペットやアイドル、タレント等について、恋愛対象になるかをたずねたところ、約 3 割が対象になると回答しています。「アイドル」や「タレント」においては 1 割以上が恋愛対象になると回答しています。

・男女別では、男性の方が「疑似恋愛対象あり」が 32.6%と、やや男性の方が一般人や身近な人だけでなく恋愛対象が広いことがうかがえます。特に男性の事実婚では、約 6 割が恋愛対象になると回答しており、女性や他の婚姻状況より、「アイドル」や「タレント」、「スポーツ選手」も恋愛対象としてとらえている割合が高いようです。また、結婚への意向度合いでは、「すぐに結婚したい」と考えている人ほど「疑似恋愛対象あり」が高く、恋愛対象が広いようです。(図表 23▶)

(図表 23) 疑似恋愛の対象 (複数回答)



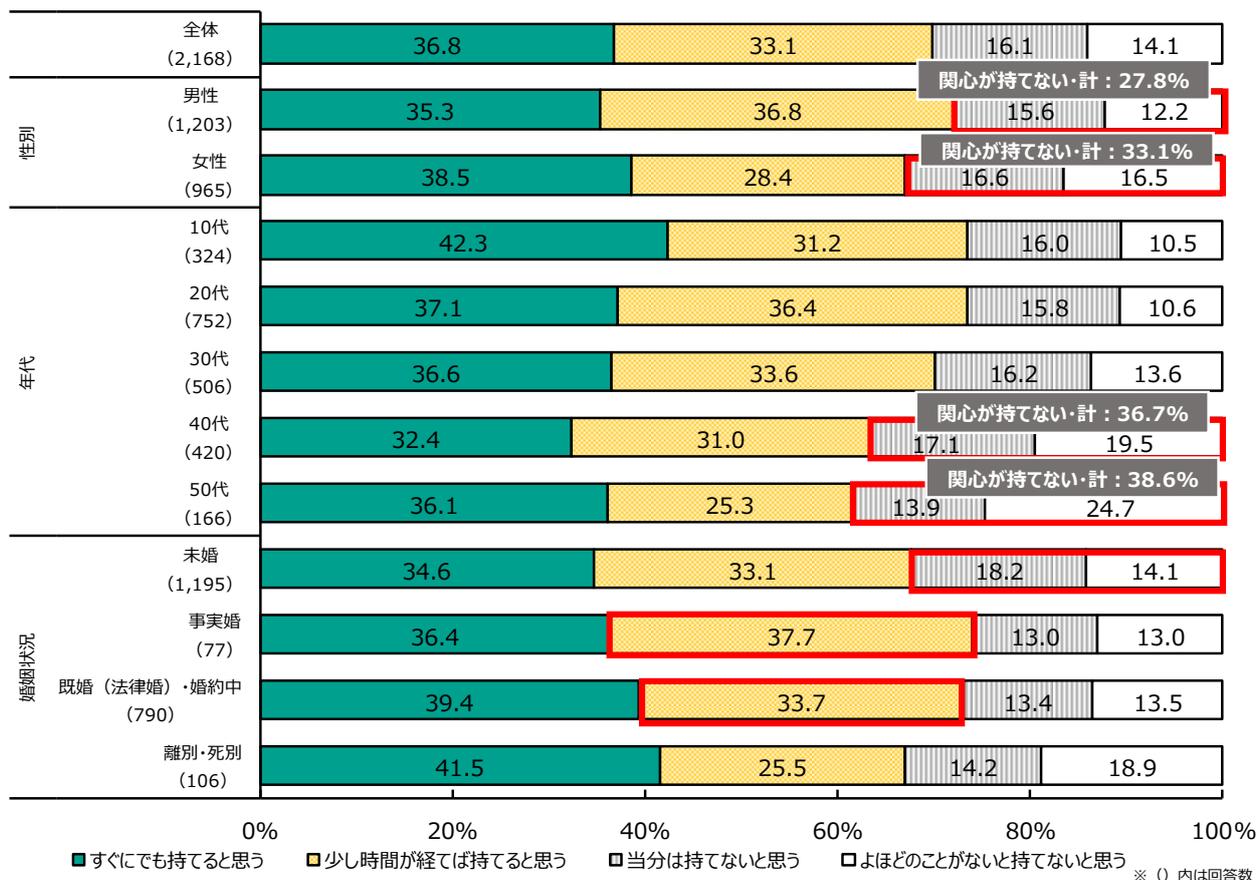
・では、それぞれの対象にどのようなことを行なっているのかをたずねたところ、「アイドル」や「アニメ・ゲーム等のキャラクター」を恋愛対象としている人は、回答個数平均（選択した選択肢の個数の平均）が他を恋愛対象としている人よりも高い傾向であり、対象に対して複数のことを行なっていることがうかがえます。(図表 24▶)

(図表 24) 恋愛対象に対して行なっていること (複数回答)

回答数	プレゼントを贈る	グッズを買う	イベント・ライブに参加する	誕生日を祝う	手紙を書く	お金を渡す	話しかける	ファンコミュニティでその対象のことを話す	その他	何もしない	回答個数平均
ペット (418)	29.4	20.6	13.6	19.1	0.0	0.0	22.0	6.2	1.2	24.2	1.36
アイドル (944)	11.3	34.4	32.8	21.2	10.3	5.1	8.1	10.2	0.7	35.2	1.69
タレント (748)	9.2	16.7	21.0	14.7	10.0	5.5	7.2	7.1	0.7	46.3	1.38
スポーツ選手 (520)	9.6	13.8	19.2	11.7	9.0	9.2	11.3	6.3	1.0	36.2	1.28
ホスト・ホステス・メイドカフェ等 (230)	17.8	13.0	14.8	20.4	10.9	13.5	16.1	9.6	0.0	30.0	1.46
性的サービス産業(風俗) (303)	14.5	7.3	8.6	13.5	10.2	20.5	16.2	6.6	0.3	39.9	1.38
アニメ・ゲーム等のキャラクター (499)	7.8	36.7	19.0	22.0	6.2	6.0	9.6	12.2	1.4	36.7	1.58
AIアバター (115)	8.7	13.0	20.9	17.4	9.6	11.3	19.1	14.8	0.9	29.6	1.45
その他 (16)	6.3	31.3	25.0	31.3	12.5	6.3	18.8	12.5	18.8	43.8	2.06

・ペットやアイドル、タレント等が恋愛対象になると回答した人に、今後リアルな恋愛に関心を持てるかをたずねたところ、男女ともに3割前後が「関心は持てない・計（「当分は持てないと思う」＋「よほどのことがないと持てないと思う）」と回答。年代別で見ると、40代や50代の方が「関心は持てない・計」が高くなっています。**未婚者においても「関心は持てない・計」が32.3%と高くなっており、疑似恋愛が恋人を今すぐ欲しいと思わない要因の1つになっているのかもしれない。**また、事実婚、既婚・婚約中の4割近くが、「少し時間が経てば持てると思う」と回答しており、“すぐ”にはリアルな恋愛に関心は持てないようです。（図表25▶）

（図表25）リアルな恋愛に関心を持てるか（単一回答）



エコノミスト木村彩月が「疑似恋愛」について分析！

疑似恋愛の対象があると回答した人は、若年層ほど多いという結果となりました。最近では、疑似恋愛とまではいかずとも、有名人やアニメ・ゲーム等のキャラクターなど、応援する対象にお金を使う消費形態として、「推し活」という言葉がごく一般的に使われるようになりました。消費者庁の「消費者意識基本調査」では、SNS等の利用が活発な若年層を中心に、「推し活」に意欲的であるとの調査結果が出ています。3年に及ぶコロナ禍で、漫画やアニメ、動画など自宅で楽しめるものに関心が集まったほか、対面での交流機会が減少した代わりに、インターネットやSNSなどを通じた共通の興味を持つ人々との交流が増加したことなどが、「推し活」市場の拡大に寄与しているとみられます。ポストコロナで、ライブイベントやコラボカフェなどの開催も容易になりました。この「推し活消費」は今後も様々な場面で広がると考えられ、日本経済において重要な消費形態となりそうです。



一方で、疑似恋愛の対象がある人のうち、今後リアルな恋愛に関心が持てないと回答した人も多くなっています。疑似恋愛の対象が人生において重要な存在となる反面、リアルな恋愛・交際意欲の低下につながり、結果として婚姻率や出生率などにも影響を与えている可能性があります。

※本レポートは、明治安田総合研究所が情報提供資料として作成したものであり、いかなる契約の締結や解約を目的としたものではありません。掲載内容について細心の注意を払っていますが、これによりその情報に関する信頼性、正確性、完全性などについて保証するものではありません。掲載された情報を用いた結果生じた直接的、間接的トラブルや損失、損害については、一切の責任を負いません。またこれらの情報は、予告なく掲載を変更、中断、中止することがあります。

●照会先● 株式会社 明治安田総合研究所 〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-11 TEL03-6261-7947